

## ○ 文学碑

令和2年11月時点

| 市町村  | 所在地       | 名称         | 概要（碑文等）  |
|------|-----------|------------|--|
| 鹿児島市 | 鹿児島市古里町   | 林芙美子文学碑    | 花のいのちはみじかくて苦しきことのみ多かりき 芙美子                                   |
| 鹿児島市 | 鹿児島市加治屋町  | 木島冷明歌碑     | 朝東風に耕の大傘のたわむなり祇園会はるる鹿児島 冷明                                   |
| 鹿児島市 | 鹿児島市加治屋町  | 東郷久義歌碑     | つばくろが縦横にとびせきれいが 直線にとぶこの川の時間 久義                               |
| 鹿児島市 | 鹿児島市照国町   | 石塚月亭顕彰歌碑   | 老いらくのわれに子もなく孫もなしたゞめぐまれて良き友のあり 月亭                             |
| 鹿児島市 | 鹿児島市城山町   | 安田尚義歌碑     | わが祖父もわがちゝもまた従ひきみ命の山に立ちて涙す 尚義                                 |
| 鹿児島市 | 鹿児島市稲荷町   | 細川幽斎磨崖詠歌   | ここもまたよしのに近きなつみ川ながれて瀧の名にやおつらん 細川幽斎                            |
| 鹿児島市 | 鹿児島市吉野町   | 芭蕉句碑       | 春もやゝけしきとゝのふ月と梅 芭蕉  |
| 鹿児島市 | 鹿児島市吉野町   | 芭蕉塚（瓢塚）句碑  | ゆふがほや秋はいろいろの瓢哉   |
| 鹿児島市 | 鹿児島市吉野町   | 鶴田正義慰霊歌碑   | うきこともわかちあひつゝはげみしはきのふのごとし雲ながれゆく 鶴田正義                          |
| 鹿児島市 | 鹿児島市南林寺町  | 月照歌碑灯笼句    | 大君のためには何か惜しからむ薩摩の瀬戸に身は沈むとも曇りなき心の月の薩摩潟沖の波間にや が入りぬる            |
| 鹿児島市 | 鹿児島市常盤町   | 芭蕉塚（雪見塚）句碑 | 眺みては雪まつ竹のけしき哉はせを翁  |
| 鹿児島市 | 鹿児島市鴨池1丁目 | 小城古鐘句碑     | 雨けぶる松山杉山ほととぎす 古鐘   |
| 鹿児島市 | 鹿児島市宇宿町   | 芭蕉句碑       | もの一我がよははかるきひさご哉旅に病で夢は枯野をかけ廻る 芭蕉                              |
| 鹿児島市 | 鹿児島市宇宿町   | 水原秋桜子句碑    | 樟若葉かゝやく如き前途なり 秋桜子  |
| 鹿児島市 | 鹿児島市下福元町  | 勝又一透句碑     | あたゝかに日もすがらなる瀬音かな 一透  |
| 鹿児島市 | 鹿児島市下福元町  | 前之園喜一郎歌碑   | 谷山をいとゆるやかに圍繞する 山なみ今朝は秋さびて見ゆ 前之園喜一郎                           |
| 鹿児島市 | 鹿児島市平川町   | 鶴田海南さゝ歌碑   | あめつちに友ひとりほしかしのみのひとりなりともわれを知る友なきつまにきりてたむけしくろかみもしらがとなりてかく老いにけり |
| 鹿児島市 | 鹿児島市古里町   | 細川幽斎歌碑     | いにしへに誰か言ひけん桜島つくしの海に富士をうつして                                   |
| 鹿児島市 | 鹿児島市古里町   | 与謝野晶子歌碑    | 桜島わが枕よりやや高く海に近かる夏の月明   |
| 鹿児島市 | 鹿児島市古里町   | 水原秋桜子句碑    | 火の山を負ひ立つ碑なり草紅葉   |

| 市町村  | 所在地              | 名称                    | 概要（碑文等）  |
|------|------------------|-----------------------|--|
| 鹿児島市 | 鹿児島市有村町          | 高野素十歌碑                | 初蝶の溶岩につき当たりつき当たり   |
| 鹿児島市 | 鹿児島市有村町          | 平野国臣歌碑                | わが胸の燃ゆる思ひにくらぶれば煙は薄し桜島山   |
| 鹿児島市 | 鹿児島市有村町          | 海音寺潮五郎歌碑              | 我が前に桜島あり西郷も大久保も見し火を噴く山ぞ  |
| 鹿児島市 | 鹿児島市上竜尾町         | 勝海舟歌碑                 | ぬれぎぬを干そうともせざり供らがなすがまにまに果てし君かな  |
| 鹿児島市 | 溶岩なぎさ遊歩道内        | 角川春樹照子親子句碑            | 地に垂れていよいよあをきさくらかな(春樹) 火の島の左右に紫春の暁(照子)  |
| 鹿児島市 | 溶岩なぎさ遊歩道内        | 藤後左右句碑                | 夏山と溶岩の色とはわかれけり   |
| 鹿児島市 | 溶岩なぎさ遊歩道内        | 金子兜太句碑                | 黒い桜島折れた銃床海を走り  |
| 鹿児島市 | 溶岩なぎさ遊歩道内        | 高浜年尾句碑                | 溶岩色を重ねて古りて冬ざれて   |
| 鹿児島市 | 溶岩なぎさ遊歩道内        | 水原秋桜子句碑               | さくら島とどろき噴けり旧端午   |
| 鹿児島市 | 月読神社境内           | 高浜虚子句碑                | 溶岩に秋風のふきわたりけり  |
| 鹿児島市 | 桜島自然恐竜公園地内       | 米谷静二句碑                | 噴煙の俄に高く菊咲けり  |
| 鹿児島市 | 指宿スカイライン樋高・大谷展望所 | 皇太子妃美智子妃殿下歌碑（現皇后陛下御歌） | 昭和58年に行啓の折、この展望所の景観の素晴らしさと合歡(ねむ)の花に心を寄せた歌。「薩摩なる喜入の坂を登り来て合歡の花見し夏の日想ふ」   |
| 鹿児島市 | 千貫平自然公園          | 福永耕二歌碑                | 「雲嶺母あるかぎりわが故郷」   |
| 鹿児島市 | 鹿児島市春山町寺脇        | 春山岩屋観音                | 山幾重秋風に座す観世音(棕鳩十)   |
| 鹿屋市  | 鹿屋市古江峠           | 安田尚義歌碑                | 大衆は素朴なれどもはつらつとおほいなる世の光を担ふ  |
| 阿久根市 | グランビューあくね敷地入口    | 頼山陽詩碑                 | (碑文) 危礁乱立大瀦間決皆西南不見山鶴影低迷帆影没天連水処是壺灣(建立) 昭和53年1月15日文政元年西遊の途次「危礁乱立大瀦間」を詠んだ頼山陽の詩「阿嶠嶺」を刻んだ詩碑中央で活躍中の阿久根市波留出身の東源蔵氏が、故郷を想う気持ちを詩碑に託し建立寄贈した。            |
| 阿久根市 | 阿久根市牛之浜頼山陽公園内    | 頼山陽詩碑                 | (碑文) 危礁乱立大瀦間決皆西南不見山鶴影低迷帆影没天連水処是壺灣(建立) 昭和28年3月23日文政元年西遊の途次「危礁乱立大瀦間」を詠んだ頼山陽の詩「阿嶠嶺」を刻んだ詩碑阿久根海岸一帯が県立自然公園に指定された記念に文政元年山陽が泊したと思われる牛之浜の茶屋の跡に建てられたもの |
| 阿久根市 | グランビューあくね前       | 田中常憲先生歌碑              | (碑文) 生まれ郷初恋の郷父母の郷故郷よ阿久根よなつかしきかな(建立) 昭和51年5月5日歌人田中常憲の生誕の地を望む地に、全国各地の子弟、新月会員をはじめ、その徳を慕う多くの人々の芳志により建設した。  |
| 阿久根市 | 阿久根市脇本黒之上        | 浜之上黒潮句碑               | (碑文) おほわだは月夜ながらに時雨けり(建立) 昭和44年初夏浜之上信隆(黒潮) 没後瀬祭支部の同人諸氏が黒潮の業績を永久に残すため、墳墓の地に建立した。   |
| 阿久根市 | 戸柱公園             | 八田知紀歌碑                | 光礁の光る心を人とはば神のみたまと吾はこたへん  |

| 市町村  | 所在地                                     | 名称        | 概要（碑文等）   |
|------|---|-----------|---|
| 阿久根市 | 戸柱公園                                    | 与謝野寛歌碑    | 光礫の波と岩とに今日ふれて清く明るくなる心かな   |
| 阿久根市 | 阿久根市脇本馬場                                | 浜之上黒潮句碑   | （碑文）晴れ切って天に色なし寒桜（建立）昭和40年新春黒潮の邸内には1本の緋寒桜が植えてあり、故人はて楽しんだという。       |
| 阿久根市 | 戸柱公園                                    | 与謝野晶子歌碑   | 乙女子のさし揃ほどにやさしきは西の阿久根の大島にして  |
| 出水市  | 出水市平和町（特攻碑公園内）                          | 特攻碑       | 雲こそわが墓標落暉よ碑銘を飾れ（裏面碑文）われらに代りて代りなき若き生命を南海の千尋の底に沈めし若き勇士らよ今日よりは安らげく瞑れ |
| 出水市  | 出水市本町（市立図書館内）                           | アユの句碑     | 「鮎の初漁の日橋のそこらまで出ぬ」碧  |
| 出水市  | 出水市小原上（小原農村公園内）                         | 味噌なめての碑   | 味噌なめて晩飲む焼酎に毒はなしすかかあ煤け燗に酌をさせつつ                                     |
| 出水市  | 出水市高尾野町下山                               | 佐藤佐太郎歌碑   | 空わたり来る鶴のむれまのあたり聲さわがしく近づけにけ里                                       |
| 出水市  | 荒崎展望台公園                                 | 鍵和田柚子句碑   | 鶴啼くやわが身のごゑと思ふまで   |
| 指宿市  | 指宿市開聞十町1285-2<br>玉乃井内                   | 齊藤茂吉歌碑    | 玉の井に心戀しみ丘のへをのぼりてくだる泉は無しに  |
| 指宿市  | 指宿市開聞十町1366-1<br>枚聞神社内                  | 齊藤茂吉歌碑    | たわやめの納めまつりし玉手筥そのただ香にしわが觸るごと                                       |
| 指宿市  | 指宿市湯の浜五丁目25-18<br>砂むし会館砂楽 個室シャワー棟周<br>辺 | 菊地幽芳碑     | 畑掘れば出湯畑に湧き磯掘れば磯にも湧き出る指宿の里   |
| 指宿市  | 指宿市湯の浜五丁目25-18<br>砂むし会館砂楽 海岸堤防付近        | 齊藤茂吉歌碑    | なぎさにも湧きいづる湯の音すれど潮満ちきたりかろくゆくも                                      |
| 指宿市  | 指宿市湯の浜五丁目25-18<br>砂むし会館砂楽内              | 齊藤茂吉歌碑    | 枕へに濤の音きこえ重々しとどろく中にこぼろぎのごゑ   |
| 指宿市  | 指宿市湯の浜五丁目25-18<br>砂むし会館砂楽 砂むし場付近        | 与謝野寛歌碑    | 砂風呂に潮さしくればかりそめの葎の屋根も青海に立つ   |
| 指宿市  | 指宿市湯の浜五丁目25-18<br>砂むし会館砂楽 砂むし場付近        | 与謝野晶子歌碑   | 白波の下に熱砂の隠さるる不思議に逢えり指宿に来て  |
| 指宿市  | 指宿市東方11683-2<br>魚見岳自然公園駐車場付近            | 与謝野寛歌碑    | 大隅を遠景としていぶすきの海たひらかに青む夕暮   |
| 西之表市 | 西之表市西之表雲之城墓地                            | 若狭の碑      | やまと月も日も日本の方ぞなつかしやふたおやわが双親のあると思えば                                  |
| 西之表市 | 西之表市西之表雲之城墓地                            | 海音寺潮五郎文学碑 | あわれここ若狭の墓か白砂のもろく崩るる海のへの丘  |
| 垂水市  | 垂水市文化会館                                 | 瀬戸口藤吉翁の碑  | 世界的に有名な「軍艦行進曲」の作曲家瀬戸口藤吉翁を称える碑                                     |
| 垂水市  | 垂水市文化会館                                 | 和田英作画伯の碑  | 日本洋画界の大家和田英作画伯の偉大な功績を称える碑   |

| 市町村   | 所在地                | 名称                | 概要（碑文等）  |
|-------|--------------------|-------------------|--|
| 薩摩川内市 | 薩摩川内市立図書館          | 若谷莫哀今井白楊二人文       | 「たえてこしこれのつきひのわびしさもなれてはうれしまつかぜのおと」若谷模哀「そうだ闇は濃くて暗いこの世は罪悪が多い甘い誘惑は総べてに潜められているだが光があるのは真理だ」今井白楊  |
| 薩摩川内市 | 川内文化ホール            | 斎藤茂吉歌碑            | この町のとみに栄ゆる有様をまのあたり見て社へ急ぐ   |
| 薩摩川内市 | 森園病院敷地内            | 頼山陽               | 「晩宿逆旅御擔・」(晩く逆旅に宿し担・を降す)  |
| 薩摩川内市 | 川内川河畔公園            | 与謝野寛（鉄幹）歌碑        | ほのぼのと川内川の夕映えのぼら色にしてめぐりたる船  |
| 薩摩川内市 | 川内川河畔公園            | 与謝野晶子歌碑           | 月光に比すべき川の流るるや薩摩の国の川内郷に   |
| 薩摩川内市 | 川内歴史資料館付近          | 万葉の川筋散策の路(万葉の散歩道) | 万葉集から、大伴家持をはじめ15首の四季を詠んだ歌を選定し、歌碑を銀杏木川沿いに設置している。また、詩に詠われた木々も歌碑と一緒に植栽している。四季に応じた詩・植物を楽しむ事ができる。薩摩日高氏海人の詠んだ梅の歌碑は、「令和」の由緒となった大伴旅人が催した歌会で詠まれた歌の歌碑である。                                  |
| 薩摩川内市 | 国道328号沿(向山公民館)     | 勝野ふじ子文学碑          | 昭和10年から19年までの9年間、執筆活動が続けられ、9作品を執筆し29才の若さで亡くなられた作家。また芥川賞の選考会に挙がるなど入来町を舞台に素晴らしい作品を残している。   |
| 薩摩川内市 | 薩摩川内市東郷町藤川(藤川天神境内) | 森園天涙歌碑            | 木をうつりてひよどり鳴けり家のうらの杉の木立はいまだくらきに薩摩川内市東郷町藤川出身の歌人。大正4年上京後珊瑚礁社を結成し、中央歌壇に確固たる地位を占める。元鹿児島日報（現南日本新聞）編集局長、元南日歌壇選者   |
| 薩摩川内市 | 鶴牟田池県立自然公園         | 山元友一歌碑            | 七つ盛り飯型にとり甲ふ湖なつかしよ今日は妻を率寝   |
| 薩摩川内市 | 薩摩川内市下飯町瀬々野浦       | しんきろうの碑（平田清       | 往診の道すがら見し、しんきろう現代のように自動車道もない時代に青瀬地区在住の平田医師が、この峠から遥か彼方の水平線に林立するビル街を見たときにこの句を詠んだ。  |
| 日置市   | 徳重神社               | 黒木爽岳の句碑           | 天の奥ほのかに暗し古書曝す  |
| 日置市   | 日置市伊集院町徳重564       | 平野國臣の碑            | わが胸の燃ゆる思いにくらぶれば煙はうすし桜島山  |
| 日置市   | 日置市吹上町入来 吹上浜周辺     | 吉田紘二郎句碑           | 昭和12年7月、最愛の妻明枝を亡くした吉田紘二郎の悲しみを癒すため、鹿児島在住の早稲田大学校友会など友人たちによって建てられた。表に「初秋や夢よりあわきものがたり」と夫人の句。裏は「吹上浜千鳥なきつれて波を呼び松籟を誘ふ。遥かなる水平線上雲あり、雲消えて歩めど人なく浪むせび天涯涙魂をよぶ。かつて亡妻明枝とここにありき、句をけずりて切々の情をとどむ。」 |
| 曾於市   | 曾於市末吉町向江公園         | 高木秀吉詩碑            | 「閑けさにたえきれないで鳳仙花の実ははじけるのです」秀吉   |
| 曾於市   | 曾於市末吉町図書館前         | 山中隼人歌碑            | 「戦死せし友の今際は何処ならむきびの穂並みに風渡るのみ」   |
| 曾於市   | 住吉神社               | 島津忠恒歌碑            | 「祝行く末も今ぞ知らるる国々のあまつ御神の恵みある世は」   |
| 曾於市   | 住吉神社               | 島津家久歌碑            | 「秋の色にうつる梢も住吉の神代の松はあらはれにけり」   |
| 曾於市   | 旧末吉駅前              | 山頭火歌碑             | 「年とればふるさとこひしいつくつくぼうし」  |
| 曾於市   | 高之峯                | 平岡深歌碑             | 「生るもの遅しきかな高之峯の落花の中にもゆるさわらび」  |
| 霧島市   | 霧島市満辺町上床公園内        | 斉藤茂吉の歌碑           | ひむがしの空にあきらけき高千穂の峰に直向ふみささぎぞこれ   |

| 市町村     | 所在地                 | 名称                    | 概要（碑文等）   |
|---------|---------------------|-----------------------|---|
| 霧島市     | 霧島市牧園町高千穂           | 若山牧水歌碑                | 有明の月はさえつつ霧島の山の谷間に霧立ちわたる   |
| 霧島市     | 霧島市牧園町高千穂国民休養地内     | 海音寺潮五郎歌碑              | 霧島は神山なれば谷々に湧く雲さえも尊かりけり  |
| 霧島市     | 霧島市牧園町高千穂国民休養地内     | 斎藤茂吉歌碑                | 霧島の山のいで湯にあたゝまり一夜を寝たり明日さへも寝む   |
| 霧島市     | 霧島市牧園町高千穂国民休養地内     | 与謝野鉄幹歌碑               | 匂えども摘まで来にけり霧島は草のひとはも神しるしめす  |
| 霧島市     | 霧島プリンスホテル内          | 野口雨情歌碑                | 夏が来たら霧島山に御山つつじの花が咲く   |
| 霧島市     | 牧園町高千穂内国民休養地内       | 水原秋桜子句碑               | 高千穂の霧来てひよく鶉のごゑ  |
| 霧島市     | 牧園町宿窪田              | 斎藤茂吉歌碑                | 日当山妙見安楽塩浸湯は湧きいでてくすしき国ぞ  |
| 霧島市     | 霧島市霧島神宮前霧島市大鳥居前     | 斎藤茂吉歌碑<br>与謝野晶子歌碑     | 大きなこの静けさや高千穂の峰へたるあまつゆふぐれ<br>霧島山のいで湯にあたまり一夜を寝たり明日さへも寝む<br>深流の湯の霧しるしきりしまは里の生る境ならまし  |
| 霧島市     | 霧島市妙見温泉郷            | 斎藤茂吉歌碑                | 日当山妙見安楽塩浸湯は湧きいでてくすしき国ぞ  |
| 霧島市     | 霧島市福山町福山            | 末野駄句楼句碑               | 冬うらゝ狸眠りの桜島  |
| 霧島市     | 霧島市国分上小川3819(城山公園内) | 山口誓子                  | 虹の環を以て地上のものかごむ  |
| いちき串木野市 | いちき串木野市芹ヶ野山之神社社境内   | 与謝野晶子歌碑               | やみの中にともしびゆれて祭りあり金山峠の夜の道かな昭和57年11月建立   |
| いちき串木野市 | いちき串木野市羽島           | 万造寺齊歌碑                | 行かまほし惱みいたづき振りすてて南の海辺遠きふるさとふるさとや海のひびきも遠き世のこだまの如し若き日思へばふるさとの浜の砂原小石原生きてふたたび踏まむ日なきかいちき串木野市羽島に生まれた歌人。昭和35年3月に万造寺齊顕影会によって建立された。 |
| いちき串木野市 | いちき串木野市長崎町（長崎鼻公園内）  | 柳原白蓮歌碑                | 右も海左も海の色蒼く沖の小島に想ひはふかし歌人柳原白蓮は、昭和32年春中国視察旅行の帰途、串木野の友人を訪れ、長崎鼻の絶景に魅せられこの歌を残した。  |
| いちき串木野市 | いちき串木野市芹ヶ野(国道3号線沿い) | 与謝野晶子・寛歌碑             | 疎らにも螢の出でて飛びかへり串木野村の金山のもと（晶子）串木野はなつかし此處に生まれたる齊の歌を口ずさみ行く（寛）平成2年10月建立  |
| 南さつま市   | 南さつま市加世田竹田神社境内      | いにしへの道<br>(日新公いろは歌歌碑) | 薩摩藩における子弟教育の経典として重視され薩摩論語ともいわれた「日新公いろは歌」加世田市制30周年を記念して、風情豊かないぬまき古木の並木路に建立された。<br>「いにしへの道を聞きても唱へてもわが行ひにせずばかひなし」外46首        |
| 南さつま市   | 南さつま市笠沙町野間池（夕日ヶ丘公園） | 川田順歌碑                 | いにしえも今もあらざり阿多の海の黒潮の上に釣りする見れば神さびし笠沙の御前に君が行けば夕日の火照るときは春向こう  |
| 南さつま市   | 南さつま市笠沙町黒瀬（杜氏の里公園）  | 川田順歌碑                 | 冬知らぬ薩摩野菊の咲くところ神代の跡のいそにおりたつ  |
| 南さつま市   | 南さつま市笠沙町赤生木         | 島津日新歌碑                | 旅人の時雨ぬれし大浦湯笠松もあり笠石もあり   |
| 南さつま市   | 南さつま市笠沙町姥(アヲ式海岸展望所) | 斎藤茂吉歌碑                | 神つ代の笠狭の碑にわが足をひとたびとどめ心和ぎなむ   |

| 市町村   | 所在地                 | 名称      | 概要（碑文等）  |
|-------|---------------------|---------|--|
| 南さつま市 | 南さつま市笠沙町大当(海岸公園)    | 八田知紀歌碑  | 秋の夜の月の行方をしたふには西の海こそよなかりけれ  |
| 南さつま市 | 南さつま市大浦町亀ヶ丘         | 河野道治碑   | 春ゆたか人間僅かなものにつながる未知春  |
| 南さつま市 | 南さつま市大浦町亀ヶ丘         | 前永篤碑    | 「無鳥光を示顯し給ふ入陽かな」行海  |
| 南さつま市 | 南さつま市大浦町亀ヶ丘         | 大坪白夢碑   | 紺青の海原の岬から濃塩のしぶきを吹き上げ雨雲を透してそのひとの吐息の喰ひせまる<br>杏かなる思春の昼太古より妖精の奏でる旋律の美しき流れにのり霧の深い谷間の罨にわく<br>露に濡れひとと咲く蘇苔の群落そしてやがて白い蘭花の季節 |
| 南さつま市 | 丸木崎展望所              | 台所太平記碑  | 「さつま潟泊の浜の乙女子は嫁ぎてもゆくか伊豆の猛男に」谷崎潤一郎作(建立)<br>明治百年記念に碑を建て記念した。  |
| 南さつま市 | 坊和楽園                | 梅崎春生文学碑 | 「人生幻化に似たり」梅崎春生作(建設)梅崎氏が生前親しかつた文壇4名が中心となり建設した   |
| 南さつま市 | 坊和楽園                | 水原秋桜子碑  | 「かつを船来そめ坊津の春深し」水原秋桜子作(建設)明治百年記念に碑を建て記念した。  |
| 南さつま市 | 耳取岬                 | 八田知紀歌碑  | 「結ばれし旅の思ひを大空にけふこそ開らけひら開の嶽」<br>八田知紀作(建設)坊津町観光協会が坊津町制記念として建設した。  |
| 南さつま市 | 南さつま市金峰町宮崎(阿多郵便局南側) | 阿多の碑    | 天照大神の御孫穗邇邇彦命が日向の高千穂に降臨なされたが、まもなく金峰山(大山)に<br>来臨され、阿多出身の木花開耶姫と結婚され穗邇出見命がお生まれになった。                                    |
| 志布志市  | 松山城址                | 神州不滅の碑  | 文治4年平重頼が築城した松山城址の二之丸に大東亜戦争末期に至り本土上陸作戦に備え積兵団が陣地を構築して駐<br>屯本土上陸決戦に備えたが終戦となり積兵団長芳仲中将揮毫により神州不滅の碑を建立した。                 |
| 志布志市  | 陣岳国際の森              | 藤後惣兵衛句碑 | 新樹並びなさい写真撮りますよ花石榴波も志布志の騒音のうち外3句口語俳句の先駆者  |
| 志布志市  | 志布志町夏井国民宿舎*ルリア*ガグリ  | 種田山頭火句碑 | ・志布志へ一里の秋の風ふく・こころしずかに山のおきふし・海は果てなく島が一つ   |
| 志布志市  | ガグリ岬遊園地             | 種田山頭火句碑 | ・砂がぼこへ旅はさみしい・秋風の石を拾ふ   |
| 志布志市  | 志布志駅前               | 種田山頭火句碑 | ・一きれの雲もない空のさびしさまさる   |
| 志布志市  | 宝満寺公園               | 種田山頭火句碑 | ・家をもたない秋がふかうなつた  |
| 志布志市  | ふれあい健康プラザ北側緑地帯      | 種田山頭火句碑 | ・砂掘れば砂のほろほろ  |
| 志布志市  | 運動公園北側入口            | 種田山頭火句碑 | ・松葉ちりしめていますお休みなさい  |
| 志布志市  | JR「大隅夏井駅」駅舎前        | 種田山頭火句碑 | ・線路へこぼるゝ萩の花かな  |
| 志布志市  | 志布志地区公民館分館前         | 種田山頭火句碑 | ・秋の空高く巡査に叱られた  |
| 志布志市  | 小西児童公園              | 種田山頭火句碑 | ・松風ふいて壱ばかり   |

| 市町村  | 所在地                         | 名称           | 概要（碑文等）  |
|------|-----------------------------|--------------|--|
| 志布志市 | 天水氏庭園近く湧水源                  | 種田山頭火句碑      | ・飲まずには通れない水がしたゝる   |
| 志布志市 | ダグリ源泉前パーキング                 | 種田山頭火句碑      | ・こゝまできてこの木にもたれる  |
| 志布志市 | 旧山中氏邸                       | 種田山頭火句碑      | ・秋の白壁を高く高く塗りあげる  |
| 志布志市 | 観光船バース                      | 種田山頭火句碑      | ・波のかゝやかさも秋となった   |
| 奄美市  | 奄美市名瀬小侯町20-1県立図書館<br>奄美分館前庭 | 島尾敏雄文学碑      | 奄美を舞台にした小説「死の棘」「出発は遂に訪れず」などを書いた作家島尾敏雄の文学碑。S 33～50まで県立図書館奄美分館長を務めた。碑文は島尾敏雄の直筆で、「病める聲も折らずけげぶる燈心も消さない」と刻んである。 |
| 南九州市 | 穎娃町郡瀬平公園内                   | 与謝野鉄幹        | せびら迫平まで我れを追ひ来りて松かげに瓜を裂くなり穎娃の村をさ  |
| 南九州市 | 穎娃町郡瀬平公園内                   | 与謝野晶子        | 片はしを迫平に置いて大海の開闢が岳立てるなりけり   |
| 南九州市 | 知覧町平和会館前                    | 神坂次郎文学碑      | 今日われ生きてあり  |
| 南九州市 | 知覧町平和会館前                    | 鶴田正義慰霊歌碑     | 帰るなき機をあやつりて征きしはや開闢よ母よさらばさらばと   |
| 南九州市 | 八瀬尾の滝                       | 八田知紀歌碑       | 白雲の幾重かさなる高嶺より落ち来る滝の流れなるらむ  |
| 南九州市 | 岩屋公園                        | 岩屋公園碑        | 雲のふちいろとり落つるゆふあかね磨崖ほとけの顔照らし計り   |
| 南九州市 | 岩屋公園                        | 福永耕二碑        | 風と競ふ帰郷のころ青稲田   |
| 伊佐市  | 伊佐市大口鳥巣とどろ公園                | 海音寺潮五郎望郷の歌碑  | ふるさとのさつまの国は空あをしただあををと澄み通るなり  |
| 三島村  | 三島村黒島大里                     | 有吉佐和子文学碑     | 小説「私は忘れない」の舞台地   |
| さつま町 | さつま町轟町（轟の瀬公園）               | 歌人と謝野鉄幹,晶子夫妻 | 轟きの瀬は川の火ぞ少年はつづてとなりて船に遊ぶ（鉄幹）舟一つ轟の瀬をば流れ出づ生命をかけて恋する如く（晶子）   |
| さつま町 | さつま町宮之城屋地(楠木神社境内)           | 惆悵の碑（勝海舟の書）  | 「惆悵旧飲如夢」勝海舟が西郷隆盛の死を悲しんで書いた碑文   |
| さつま町 | さつま町湯田                      | 金田一春彦歌碑      | あたたかきゆのわくさとや宮之城人のなさけちこまやかにこそ   |
| さつま町 | 湯之神社（さつま町湯田）                | 岩谷莫哀         | 見下せば、さつまのかたへひと筋の川うねうねとながれたいける  |
| 長島町  | 長島町（山門野瀬戸）                  | 万葉歌碑（長田王）    | 「隼人の薩摩の瀬戸を雲居なす遠くも吾は今日見つるかも」奈良時代、肥後の班回使として下向された長田王が詠まれたもので九州最古の文学遺跡を偲ぶ碑文は、人々の旅情を慰めるに充分である。                  |
| 長島町  | 長島町指江文化ホール前                 | 妻木新平文学碑(本名福) | 六人の子供は少し多かつたかとも思う。然したのしみもまたその中にあるようだ。長島のつづきのごとく寄りあひて天草みゆるところまで来つ   |

| 市町村  | 所在地                   | 名称          | 概要（碑文等）   |
|------|-----------------------|-------------|---|
| 長島町  | 長島町下山門野（国道389号線沿）     | 児島孝顕歌碑      | 浜木綿の花咲く岬めぐりつつ首たてて清し潮の流れは  |
| 長島町  | 長島町指江道の駅長島駐車場         | 竹之内重信歌碑     | 海原も天草島も夕映えて海峡の潮、わずかに動く  |
| 湧水町  | 湧水町木場                 | 椋鳩十文学碑      | 動物たちも、あれで、みんなそれぞれに、かれらなりの生きかたをしようと、せいっぱいの努力をしているようです。こういう動物たちを、じっと、見ていると、「おい！」と、かたを、たたきたくなるようなしたしさが、わいてくるのです。わたしは、ものいわぬ動物たちにかわってしたしみやいとしさや、かなしみをこめて、かれらの生きかたを、えがいてみました。だから、また、ここにあつめられたものがたりは、「わが友なる動物たち、ささげられたものがたりと、あるかもしれません。」 |
| 湧水町  | 湧水町木場                 | 椋鳩十文学碑      | 感動は人生の窓を開く  |
| 湧水町  | 湧水町米永                 | 島津義弘歌碑      | 野の山も みな白旗となりにけり 今宵の宿は 勝栗の里  |
| 湧水町  | 湧水町般若寺                | 足利尊氏歌碑      | 日に向う山のあるじを来てみれば 端山に照らすありあけの月  |
| 湧水町  | 湧水町川添                 | 島津久住歌碑      | 又もきて 見すやあらなむ 此寺の岩間の水の 清きながれを  |
| 湧水町  | 湧水町幸田                 | 抜水ふく代歌碑     | 袈脱ぎて乳含ませし日の ありき早苗植えたる棚田の畔に  |
| 大崎町  | 椋鳩十文学記念館大崎町益丸町営プール前築山 | 椋鳩十文学碑大崎町唄碑 | カ一杯今を生きるおおききはおしゃれなまちさ7キロの銀とみどりの帯しめる大崎海岸線の7kmにおよぶ銀の砂浜と緑のクロマツ林を唄ったもの  |
| 東串良町 | 柏原海岸松林内戸柱神社           | 神武天皇御出航碑    | 神武天皇は我が郷土でご誕生になり後に大和地方平定のため、柏原の港より御出航されたという言い伝えがある  |
| 南大隅町 | 南大隅町佐多岬               | 川田順の歌碑      | 黒潮の海に昇りし天津日は佐多乃岬を日ねもす照らす  |
| 屋久島町 | 宮之浦港前(なごりの松原)         | 椋鳩十文学記念の碑   | 屋久島にゆかりのある椋鳩十先生の文学碑   |
| 屋久島町 | 屋久島町湯泊                | 椋鳩十文学碑      | 感動は人生の窓を開く  |
| 瀬戸内町 | 瀬戸内町呑之浦               | 島尾敏雄文学碑     | 「出発は遂に訪れず」「死の棘」など純文学作家として有名な島尾敏雄の文学碑  |
| 喜界町  | 喜界町志戸桶保食神社境内          | 芭蕉翁句碑       | 表に「芭蕉句碑」が刻まれている“春立ちてまだ九日の野山かな”裏には蘭字、柳曙、広庵の3首文化六年己12月建立  |
| 天城町  | 天城町岡前                 | 西郷南洲顕彰碑     | 雨斜風を帯びて版絆を叩き、子規血に啼き冤を許へて謹し。今宵離騒の賦を吟誦すれば、南竄の秋ざん百倍加わる。  |
| 和泊町  | 越山公園                  | 山口誓子句碑      | 木枯しや海に出ても帰るところなし  |
| 与論町  | 与論城跡与論町皆田海岸           | 山口誓子句碑      | 原始より碧海冬も色変へず  |